

令和6年度「取組全体スキーム」

気仙沼市教育委員会

どんな学校教育が必要なのか？

新しい時代に求められる資質・能力の向上を図るべきとき

社会課題等から

- ◎地球環境の持続可能性と開発（S D G s / 自然との共存（気象災害） / 感染症対策）
- ◎人口減少社会（人口増社会構造からの脱却と持続可能性 / 学校の役割の変化）
- ◎情報技術革新（A I との共存 / 職業の変化 / リアルとバーチャルそれぞれの価値）
- ◎社会のグローバル化（グローバル化に伴う人材育成 / 貧困と格差）
- ◎価値観の多様化（個人主義と同調圧力 / 対立を克服する力の必要性）



国が求める力＝学力の3本柱（学習指導要領）

- 実際の社会や生活で生きて働く**知識・技能**
- 未知の状況でも対応できる**思考力・判断力・表現力**
- 学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性等**



本市が育成を目指す力

- 基礎的・基本的な**知識・技能**
- 自ら考え表現し**学ぶ力**
- 社会的に**自律する力**（自立・他を大切に**する思い・挑戦する気持ち**）

気仙沼市教育大綱（令和5～9年度）

基本理念

- I 人を思いやる心と高い倫理観，豊かな感性（幅広い人間性）
- II 創造的に自律して生きていく力（未来への飛躍）
- III ふるさとを思うローカルな視点，世界で活躍するためのグローバルな視点（社会の創り手）

基本方針

- 1 主体的な学びによる「生きる力」の育成
- 2 気仙沼らしい学びの創出
- 3 まち全体で子どもを育む環境づくり
- 4 ライフステージに応じた学習・交流活動の充実

基本目標

- 1 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長
 - ア 協働的・探究的な学習による，自ら学ぶ授業づくり
 - イ ICT等を利用した個別最適な学び
 - ウ 不断の学習の改善
- 2 自律を促し，豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
 - ア 自律を後押しする教育活動
 - イ 実体験からの学び
 - ウ 健やかな体の育成
- 3 一人ひとりのニーズに応じた教育の推進
 - ア 特別支援教育
 - イ いじめ防止と不登校支援
 - ウ 子どもたちの置かれた環境や状況に左右されない教育機会
- 4 幼児教育の充実と成長に伴う学びの連続性の重視
 - ア 非認知能力を高める遊びと読書活動
 - イ 幼稚園・保育所から小・中学校，高等学校への学びの連続性
- 5 未来社会を創造するための教育の推進
 - ア ESDと海洋教育
 - イ 防災教育と震災経験の伝承
 - ウ 生き方学習・志教育
 - エ 英語教育を軸とするグローバルな学びとICT活用による情報活用能力の育成
 - オ 「気仙沼学びの産官学コンソーシアム」による学びの充実
- 6 学び続ける教師への支援
 - ア 学校の働き方改革と教師の研修
- 7 学ぶ環境の整備
 - ア 新たな学校再編計画の策定
 - イ 教育施設等の整備
- 8 家庭・学校・地域・行政が協働して子どもを育てる環境づくり
 - ア 子育てへの支援
 - イ 子どもの教育への地域ぐるみの支援
- 9 社会教育分野のDX等による，子どもから高齢者までの多彩な学習機会の提供
 - ア 市民の学習機会の充実
 - イ 青少年の健全育成と高齢者学習の充実
 - ウ 社会教育関連施設の機能の充実
- 10 健やかで豊かな市民生活につながるスポーツの振興
 - ア スポーツ機会の充実
 - イ スポーツ団体との連携と競技力の向上
- 11 豊かな市民生活につながる文化・芸術の振興
 - ア 文化・芸術活動の推進と触れ合う機会の拡充
 - イ 文化遺産の調査研究，保存，活用

※具体的な取り組みは，毎年度，教育委員会で作成する「重点施策」に基づいて推進します。

学校教育の目指すもの

教科等・E S D における

探究的な学び

- ・「問い」から始める学び
- ・STEAM教育

協働的な学び

- ・議論しながら考えて学ぶ

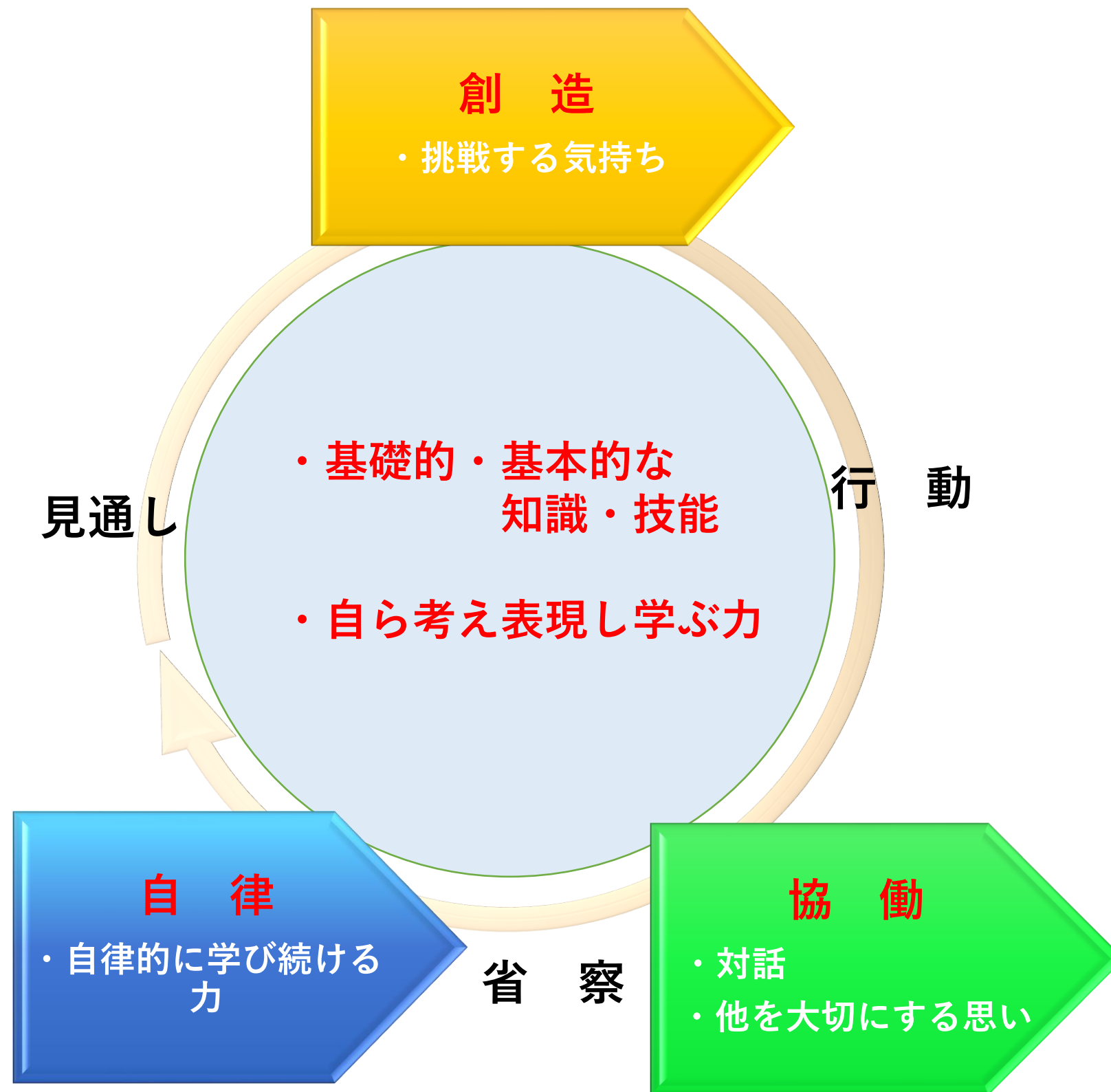
実体験からの学び

- ・実体験からの気づきを大切に学ぶ

個別最適な学び

- ・興味・関心に基づく個に応じた学び

- 有意味学習・オーセンティック学習指導
- 志教育の面からも
- 発達段階に応じて
- 地域ぐるみで



気仙沼エージェンシー

主体的に考え行動し、多様な人々と協働して、人間性が生かされる持続可能な社会へと責任を持って変革していく力

海と生きる郷土を思い、

※エージェンシーとは、変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力。OECDラーニング・コンパスの中核的概念とされる。

教育手段の構想は？

「自ら考え表現し学ぶ力」と「自律する力」を養成する

(「基礎的・基本的な知識・技能」は学習指導要領の内容から明確)

協働的・探究的学習

(令和の日本型学校教育)

- 問いから、個として思考する学習活動
- 対話で協働して、思考を深める学習活動
- 自己選択・自己決定の機会
 - (1)教科等・E S Dにおいて
 - (2)学校生活全般において
 - (3)キャリア教育等において

非認知・認知能力の
一体的向上

- 実体験と読書活動を重視して
- 発達段階に応じて
- 地域ぐるみで
 - (1)幼児教育から
 - (2)学校種間連携で
 - (3)家庭・学校・地域・行政の協働で

A 授業づくり
B カリキュラム・マネジメント
C E S D

D I C Tの活用
E 教員の指導力向上
F 教員の働き方改革

A 「授業づくり」にどう取り組んでいるか

◎「自ら考え表現し学ぶ力」と「自律する力」を育てる授業

- 問いの設定
- 単元構想の重視（学習者視点の単元計画）
- 学習サイクル「目標設定→行動→振り返り」を回す
- 児童生徒の自己選択・決定機会の設定
- 共感的な協働活動（対話）の重視
- ICTの有効活用（コミュニケーション・ツール，AIドリル等）
- ESDとのリンクを図る
- 学習活動を「習得／活用／探究」，「input／output」に区分けして

◎我々にはアンラーンが必要。**頭を切り換え**なければならない。

考えさせる授業へ／全ては教えない授業へ／「分かりやすい」より「おもしろい授業」へ／考えることを助ける協働的な学習へ／自己選択・決定させる授業へ／教授者から学びのデザイナー，ファシリテーターへ／これらを助けるICTの使い方へ／発達段階を一層意識した授業へ

◎様々な試みが始まる！

- ・課題選択学習
- ・単元内自由進度学習
- ・反転学習
- ・個人課題研究
- ・異年齢グループ学習
- ・「学びの共同体」学習

気仙沼市の学校教育【課題－近年の取組対応表】

社会課題
◎地球環境の持続可能性と開発 ○ＳＤＧｓ ○自然との共存，気象災害 ○感染症対策
◎高齢化と少子化・人口減少 ○人口減少社会の持続可能性 ○人口増社会構造からの脱却 ○学校の役割の変化
◎情報技術革新 ○ＡＩとの共存 ○職業の変化 ○リアルとバーチャル，それぞれの価値
◎社会のグローバル化（国際的な政治・経済の変動） ○グローバル化に伴う人材育成 ○貧困と格差
◎価値観の多様化 ○同調圧力 ○対立を克服する力の必要性

	学校における課題	課題解決への取組
学習	◎ 学力向上とともに，新しい時代に求められる資質・能力の向上を図るべきとき	① 「自ら考え表現し学ぶ力」を育成するための授業改革 ＝ 主体的・対話的で深い学び ＝ 協働的・探究的学習
	○ 子供たちの「余白時間」の確保の必要性	①ア カリキュラム・マネジメント（授業時間の縮減・5時間授業日）
	○ 子供たちの学習意欲の停滞，受け身な学習姿勢	①イ 授業づくり（学習における選択機会，協働的な学び，探究的な学び） ④⑤ キャリア教育（学びの産官学コンソーシアム）
	○ 算数・数学，英語のペーパー学力の低下	①イ 授業づくり（アドバイザー教員とマイスター教員，ＡＩドリル活用，習熟度別授業，英検，ＡＬＴ活用，英語の活用機会）
	○ ＥＳＤの深化	①イ 授業づくり（総合的な探究活動としてのＥＳＤ，教科とのリンク，探究学習コーディネーター配置，異年齢グループ活動） ④ キャリア教育（修学旅行及び校外学習における科学施設訪問，学びの産官学コンソーシアム活動） ⑤ 部活動の充実（プロジェクト探究部）
	○ 学習におけるＩＣＴの活用	①イ 授業づくり（デジタル指導書，マイスター教員，ＡＩドリル活用，プログラミング教材） ①ウ 家庭学習（ＡＩドリル活用，反転学習）
	○ 社会のグローバル化への対応	①イ 授業づくり等による英語教育の推進（英語活用機会を増やし学習意欲を喚起。英検受験促進，国内外訪問による英語学習促進。デジタル教科書・ＡＩドリルの活用。ＡＬＴ英語教室，マイスター教員の活用） ④ キャリア教育 ⑤ 家庭・学校・地域・行政の協働による部活動の充実（プロジェクト探究部）
	○ 文化の伝承	①エ 授業づくり（震災経験伝承と防災教育，「けせんぬま遺産」の活用，リアスアーク美術館や震災遺構の訪問学習）
	◎ 子供たちの非認知能力伸長の必要性	② 非認知能力と認知能力の一体的向上
	○ 実体験による学びの一層の充実	①イ 幼児期からのＥＳＤの発展（「探究の芽」を育てていく） ② リアスアーク美術館や震災遺構の訪問学習，文化芸術関係の鑑賞機会
	○ 幼児教育からの一貫性ある教育	② 幼児教育の推進（「探究の芽」，「対話の芽」，「読書の芽」，幼児教育コーディネーター，人材育成指標）
	○ 幼保・小・中・高の連携強化の必要性	①② 授業づくり等において中学校区ごとの連携を強める。教師一斉研修曜日の設定。アプローチ・スタート・カリキュラムの充実
	○ 読書量の停滞	② 子供の読書活動推進計画に基づく実践，学校図書の実
	◎ 子供同士や社会からの同調圧力の中で，自律の後押しが必要（生活全般，学習面，キャリア教育の面）	① ①の全体（特に共感的な協働学習） ③ 生徒指導 ④ キャリア教育 ⑤ 家庭・学校・地域・行政の協働による子供を育てる環境づくり
	○ 子供たちの人を大切にする思い，挑戦する気持ちの減退	①イ 授業づくり（特に，対話の重視，共感的な協働学習） ③ 生徒指導（発達支持的生徒指導，特に対話の重視） ④ キャリア教育（社会における自らの役割を探究する。自己決定による行動までを求める。）
生活	○ 子供同士の人間関係づくりの不足	①イ 授業づくり（特に，対話の重視，共感的な協働学習） ③ 生徒指導（発達支持的生徒指導，対話の重視）
	○ 子供の大人との対話機会の減少	①イ 授業づくり（ＥＳＤにおける地域学校協働活動の重視，コーディネーター活用） ⑤ コミュニティ・スクール活動 ④⑤ 学びの産官学コンソーシアム活動
	◎ 子供たちの多様化	① ①の全体（特に共感的な協働学習） ⑥ 一人ひとりのニーズに応じた教育の推進
	○ 特別支援教育を受ける児童生徒	①イ 授業づくり（特に，対話の重視，共感的な協働学習） ⑥ インクルーシブ教育充実（支援員の増員，通級教室充実，教育ソフトを活用する個別支援）
	○ いじめ重大事態	①イ 授業づくり（特に，対話の重視，共感的な協働学習） ③ 生徒指導（発達支持的・課題予防的・困難課題対応的の生徒指導，教委による積極的な学校支援）
	○ 不登校児童生徒	①イ 授業づくり（特に，対話の重視，共感的な協働学習） ③ 生徒指導（発達支持的・課題予防的の生徒指導） ⑥ 教育サポートセンターの機能の充実（校内サポートセンターを支援する学習サポーターの増員）
	◎ 子供の運動量減少による体力低下	⑦ 体力向上（外遊びや徒歩通学の奨励，学校体育の充実），運動部活動の充実，ＩＣＴ使用法，食育
	○ 視力の低下	⑦ ＩＣＴ使用法（メディアコントロール，タブレットの使い方）
	○ 運動部活動の維持向上	⑦ 部活動の充実（拠点創出，大学連携，地域移行）
	◎ 家庭や地域がなすべきことが学校に委ねられ，教師の業務が拡大し負担が増加	⑧ 教師の働き方改革 ⑨ 教員研修
環境づくり	○ 保護者等からの過度な学校への要求	⑥ 教委，教育サポートセンターによる積極的な学校支援
	○ 教師の長時間勤務の実態	⑧ 働き方改革ガイドラインの作成と実践 ①ア カリキュラム・マネジメント（生徒と向き合う時間，教材研究の時間の確保） ⑦ 部活動の充実（地域移行）
	○ 教師の指導力の開発	⑨ 授業力，生徒指導力，キャリア教育力，特別支援教育力の養成
	○ 教師の不足	④ キャリア教育（教員養成支援）
	◎ 少子化，人口減少の中での学校の維持と質保証	⑩ 新たな学校再編計画の策定 ⑤ 家庭・学校・地域・行政の協働による子供を育てる環境づくり（全校のコミュニティ・スクール化）